

日本性科学会 ニュース

第23巻第3号

平成16年(2004年) 9月

発行人:野末 源一 印刷所:縷 文 社

第24回 日本性科学学会/第6回性科学セミナーのご案内

皆様、奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時: 2004年11月6日(土) 13:30~17:30, 7日(日) 8:50~17:00

場所: 朱鷺(とき)メッセ(新潟市)

学 会 長: 内野英幸(新潟県小出保健所長)

参 加 費: 性科学セミナー(11月6日) 会員・一般3,000円(学生1,000円)

学会学術集会(11月7日) 会員・一般5,000円(学生1,000円)

性科学セミナー, 学術集会(2日間) 会員・一般7,000円(学生2,000円)

メインテーマ: 人間行動学とセクシュアリティー ―性の健康を創る生き方, 育て方, 学び方―

第5回性科学セミナー(プレコンgres)

テーマ 思春期の性をポジティブに生きる 特別公演/シンポジウム

特別公演: 日本初の身障者のお笑い芸人 ホーキング青山

シンポジスト: 川名 尚, 阿部輝夫, 島 典子, 川口真理子, 渋谷知美, 岩室紳也

第24回日本性科学学会学術集会

特別講演 「文学に現れた同性愛」 鈴木道彦(フランス文学者)

座長 内野英幸(学会長)

学会長講演 「性の公衆衛生学」

座長 阿部輝夫(あべメンタルクリニック院長・日本性科学会副理事長)

基調講演 ―若者のセクシュアルヘルス―

パート1 社会疫学と予防介入 木原正博(京都大学大学院 教授)

パート2 学校における予防介入の実践 木原雅子(京都大学大学院 助教授)

座長 村口喜代(村口きよ女性クリニック・日本性科学会理事)

シンポジウム ―性の健康を創る生き方, 育て方, 学び方―

座長 新野由子(千葉大学看護学部 講師) 内野英幸(学会長)

木原正博, 木原雅子, 池上千寿子(ふれいす東京 代表)

武田 敏(千葉大学名誉教授), 佐々木綾子(新潟県村上保健所長, 元産婦人科医)

阿部真理子(養護教諭, 神奈川県立大和西高校)

ワークショップ 「性虐待」 高畠克子(武庫川女子大 教授)

座長 山中京子(大阪府立大学社会福祉学部 助教授)

「セックス依存症」 及川 卓(及川心理臨床研究所 所長)

座長 針間克己(東京家庭裁判所技官 日本性科学会幹事長)

ランチョンセミナー ウイルス性の性感染症 ―ヘルペスウイルスと人乳頭腫ウイルス―

川名 尚(帝京平成短期大学副学長・帝京大学医学部附属溝口病院産婦人科客員教授)

座長 大川玲子(国立病院機構千葉医療センター産婦人科医長 日本性科学会常務理事)

学会事務局 〒960-0118 福島県福島市宮代乳児池1-1

福島学院大学 梅宮研究室(担当: 梅宮) E-mail: 24th-toki@jsss.office.to

第24回 日本性科学学会/日本性科学連合 JFS セミナー 合同懇親会

日時・場所 11月6日(土) 18:30~20:30 ホテル日航新潟4階「朱鷺の間」参加費5,000円

ホームページ; <http://www13.ocn.ne.jp/~jsss24/> でもご案内しています。

Vol. 23

№
3

日本性科学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

サロゲート・パートナーについて

田 中 絵里緒

WAS および日本性科学会の倫理規定では、治療者が患者と性的行為をすることを禁じています。したがって、サロゲート・パートナーは認められていません。しかし、治療法の一つとして有効ではないかという意見があり、マスターズ&ジョンソンも過去に使用したことがあります。今回は、アメリカでサロゲート・パートナーの訓練を受けた田中さんのお話を聞く機会を得ましたので御紹介します。
(金子 和子)

2001年5月、アメリカ・カリフォルニア州で International Professional Surrogates' Association (IPSA) のサロゲート・パートナー研修を受けました。今回は、その時の体験につき、代表の Vena Blanchard さん（以下 Vena さん）の講義、および研修の仕方について、さらに日本で今後どのように取り入れられるか、について発表、意見交換を行いました。

アメリカでの「サロゲート・パートナー・セラピー」が、国で認められたものであるとか、サロゲートが国家資格だということにはなっていません。しかし、Vena さんが WAS, SSSS などの会員であるところを見ると、欧米で性治療に携わる人々の間では、ある程度の認知と評価があるようです。サロゲートを使うセラピストもたくさんいます。サロゲートを使うか使わないか、このクライアントに誰をサロゲートとして指名するか、は、セラピストが判断します。

サロゲートになるには、まず12週間の通学、または11日間の集中でトレーニングを受け、そのあとインターン研修（セラピストにより実際のクライアントに対して仕事を行いつつ、先輩サロゲートのアドバイスを受ける期間）を経て、セラピストと IPSA の太鼓判を押されて初めて一人前となることができます。

私の場合、日本からの参加でしたので、通学の選択肢はなく、11日間の集中訓練を受けたのですが、その時の研修は男性2人、女性2人、あわせて4人で受けました。私以外の3人は50歳前後の方でしたが、皆非常にお若くて元気で、人間的にも蓄積がすばらしい方でした。一方、Vena さんは19歳からサロゲートを始められたとのこと。年齢や個別事情に関わらず、その時にやる気と人間的素質があれば、サロゲートにはなれると思います。

研修は、講義と実技セッション、レポートによる振り返り、の繰り返しとなります。実技セッションは、クライアントとサロゲートの関係作りを想定して、男女のペアを作って行います。このために男女同数の参加者がいないと研修ができず、研修を受けたい女性は順番待ちして、男性の参加者が出た時に行うという状況です。私はご夫婦参加の夫の方と組みました。

実技セッションのはじめのほうでは、自己紹介と言葉によるコミュニケーション、次に、センセート・フォーカスの訓練、手の愛撫、顔、足の愛撫、その後で皆で裸になるセッション、パートナーと裸になる、シャワーで体を洗いう、性器の構造について見せながら教えてあげる訓練、などへと進んでいきます。

研修の時は、日程を組んで一通りのことを学びますが、実際のクライアントとのセッションでは、その人その人に応じて、またサロゲートとの関係作りの度合に応じて、次にどんなセッションをするか、セラピストが判断します。手の愛撫のセッションに6ヶ月かかる人もいるし、裸になったりする必要のない人もいます。「誰も、嫌なことを強制されない」ということが大前提の約束です。そして、クライアントの問題が解決したといえる時点でセラピーが終了します。

「クライアントの中には、30年、40年、他人に手を触られたことのない人もよくいる」という、研修の中で受けた注意が、とても心に残っています。初めてのタッチング・セッションで、1時間かけて片手だけを触れ合うということもあります。最初に、非常にソフトに慎重に、羽根が触れるようなタッチをし、ゆっくりと動かします。その間目をつぶって感覚に集中してもらい、イヤだと感じたらやめて話をしたり休みます。症例研究会の場で、これを実演しようとしたら、なかなか Vena さんのようにはできず冷や汗でした。

多くの方から、「基本コンセプトはよく分かる。言葉でのコミュニケーションや、手や足の愛撫といったことなら何の問題もないが、裸やセックスに至るのは世間の批判を受けるし、実現が難しいだろう」といった感想を頂きました。しかし、それらはすべてつながっているし、それらを区別せず連動して考えると、あなたは共感しているのよね、という指摘をいただき、この問題に関する永遠のジレンマだと感じました。

また皆様からは「逆転移」について非常に関心が寄せられました。また、マスターズ&ジョンソンでさえカプランらに批判を受けて、最後は自己批判をしたように、非常に難しさを伴うものだというところをご指摘も受けました。今回は、皆様との貴重なお話の機会を設けていただいて、大変有意義でした。ありがとうございました。

(金子・注) 手であれ、足であれ、体を愛撫することは先に述べた『性的行為』に当たりますので、この点に関しては多くの人が賛成したわけではありません。

「性同一障害特例法」

琉球大学名誉教授 石 津 宏

平成 16 年（2004）7 月 16 日（金）の沖縄の新聞には、「性同一障害」「特例法今日施行」「戸籍，女性への変更請求」などが大きな見出しで紙上をかざりました。そして 7 月 27 日には，那覇家庭裁判所で審問が実施されて，翌 7 月 28 日には同裁判所の審判で戸籍変更が正式に認められ，7 月 30 日（金）の沖縄県内各紙では，「性同一障害・初の性別変更」「県内在住 20 代男性“女性”として喜びの会見」「悩む人の力に！」などの文字が大きく躍っていました。このことは全国ニュースでも流されました。

ご存知のとおり，平成 16 年（2004）7 月 16 日，わが国に「性同一障害特例法」が施行されました。これに伴って全国各地では，この疾患（病態）に悩む患者が，戸籍の性別変更を申請しましたが，数ある請求者のうち，沖縄県の当事者が“日本初”の性別変更審判を受けたのは，たまたまとはいえ，ラッキーで喜ばしいことであったといえましょう。

平成 10 年（1998）10 月 23 日～24 日に，第 18 回日本性科学学会学術総会（会長 石津 宏）が沖縄で開催された折，「性同一障害と同性愛：脳と性，脳と心」が企画され，新井康允名誉教授の基調講演と阿部輝夫，仲本政雄両先生の司会でシンポジウムが展開されたこと，とりわけ日本初の性別適合手術（F t M）第 1 号が実施されたとの報告が原科孝雄教授によってなされて，多くの当事者やマスコミ関係者が沖縄の学会場をにぎわせたことも，実績として多少の影響があったかもしれません。

性同一障害 gender identity disorder（GID）の患者は，生来性の生物学的な性別（sex）と，心理的な性意識（性所属意識 gender identity）がくいちがっていて，肉体の性と脳の性との不一致のために小さい頃から違和感をおぼえ，思春期になると葛藤するようになり，年とともに心の重圧が大きくなって苦しみ，悩みます。「自分らしく生きたい」「心が解放されたい」という思いが強く，とうとう性別適合手術（sex assignment surgery: SRS）を受けて性転換まで望む人たちにとっては，今回の沖縄での戸籍変更審判が一つの希望のあかりとなることでしょう。

しかし今回の性同一障害者の戸籍の性別変更特例法には，① 20 才以上，② 結婚していない，③ 子供がいない，④ 生殖機能を失っている，など対象者の要件が厳しく規定してあります。これは，もし子供がいたら，親が性別変更すると子供の人格成長過程へ及ぼす心理的影響が大きく，はかり知れなく多様となる可能性が考えられるからです。したがってこの厳しい条件は大切なものですが，一方では，すでに結婚して子供をつくった後に離婚したような当事者には適応にならない，などの問題点もあります。今後 3 年を目途に見直すことが，付則としてつけ加えられています。

ところで，性同一障害にはずいぶん個人差やバリエーションがみられるのもまた現実です。単に自分と「反対の性」の友達・仲間や集団に身を置くだけで安定する程度（たとえば女性が男の中でサッカーや野球，マリンスポーツに興じ，男らしく振舞うなど）の軽症のものから，服装を変える程度のもの，中性あるいは性別無しの雰囲気を求めるものなど，バラエティに富んでいます。ホルモン療法を望む人，性転換手術（性別適合手術）を受ける人，性転換して結婚を望む人など，ピンからキリまで多様です。

今回の判例が，これからの方々に好影響を与えることは確かですが，反面，軽症，すなわちごく軽い傾向だけでおさまる人を，性転換へかりたてることにはならないように，十分注意を配ることも今後は必要になることでしょう。セックス・カウンセラーと精神科医は，この点を十分に心して当らなければならないこともつけ加えておきます。

新 入 会 員 (平成 15 年 12 月～平成 16 年 8 月)

氏名は入会順

学会ホームページ

学会ホームページが新しくなりました。今後、定期的に内容を変更し、新しい情報を提供していきます。

日本性科学会ホームページアドレス <http://www14.plala.or.jp/jsss/>

カウンセリング室ホームページアドレス <http://www14.plala.or.jp/jsss/counseling/>